

内水(浸水)ハザードマップ



内水(浸水)ハザードマップについて

内水とは、大雨が降ったときに雨水を下水道や道路側溝などに排水できなくて、地表面に溜まった水のことを言います。

裏面の地図には、過去に大雨が降ったときの内水被害の記録をもとに、住宅地や道路において、内水により浸水した場所を示しています。

市民の皆様は、このハザードマップをご覧になって、自宅や通勤・通学で通る道路などの内水による浸水の危険性を把握するとともに、住宅の浸水被害を防ぐ方法や浸水により避難が必要になった場合の対応の参考としてください。

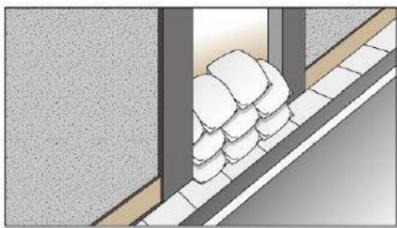
作成 : 平成26年10月
最終更新 : 令和4年7月
朝霞市役所 下水道施設課
TEL 048-463-0917

住宅の浸水被害を防ぐためには

雨水が浸入しないように土のう、止水板を設置することや、普段から道路の側溝などを掃除して、雨水が排水できるようにしておくことで、住宅の浸水被害を防ぐことができます。

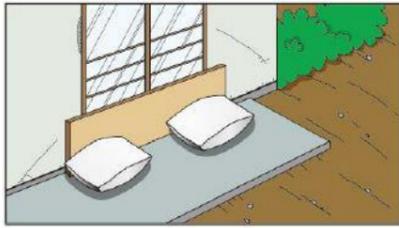
土のう

出入りに土のうを置き、雨水の侵入を防ぎます。



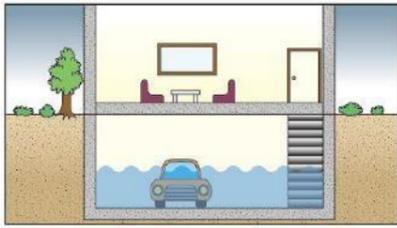
止水板

出入りに長めの板などを置き、浸水を防ぎます。



地下室への排水ポンプの設置

地下駐車場、半地下住宅では、排水ポンプを設置し、浸水に備えましょう。



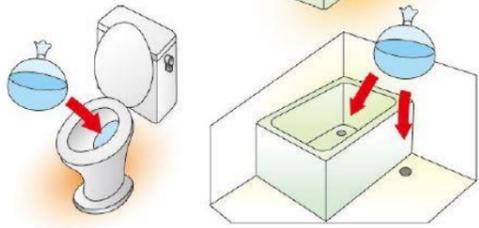
側溝や雨水ますの集水口の確認

道路の側溝や雨水ますの集水口(グレーチング)に落ち葉などが詰まっていないか確認しましょう。詰まっていたら、取り除いておきましょう。

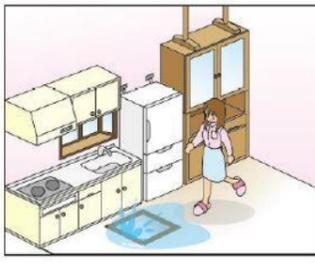


思わぬ場所からの浸水を防ぎましょう

住宅の周辺が浸水すると、下水が逆流して、トイレ、風呂場や洗濯機の排水口などから水が噴き出ることがあります。ビニール袋に水を入れて「水のう」を置くと、逆流を抑える効果があります。



床下が浸水すると、床下収納のふたが開いて、水がはいることがあります。重しを置いて、水の流入を防ぎましょう。



増加する大雨

最近10年間(平成19年~28年)の全国平均年間発生回数(232回)は、統計期間の最初の10年間(昭和51年~60年)の平均年間発生回数(174回)と比べて約1.3倍に増加しています。

■ 1時間降水量 50 mm以上の年間発生回数(1000地点あたり)

・全国約1300地点のアメダスより集計
・年による地点数の違いの影響を除くために、1,000地点あたりの発生回数に換算しています。



市内における住宅の浸水被害

大雨が頻発する中で、朝霞市では、下表に示すような住宅の浸水被害が発生しています。

最近の住宅の浸水被害

発生日月	種別	被害状況
平成17年6月4日	集中豪雨	床下浸水9戸
平成17年9月4日~5日	集中豪雨	床上浸水40戸、床下浸水80戸
平成18年5月24日	集中豪雨	床上浸水1戸、床下浸水12戸
平成21年10月7日~8日	台風18号	床下浸水12戸
平成22年7月5日	集中豪雨	床上浸水3戸、床下浸水6戸
平成25年7月23日	集中豪雨	床上浸水5戸、床下浸水21戸
平成25年10月15日	台風26号	床下浸水15戸
平成26年6月25日	集中豪雨	床上浸水65戸、床下浸水115戸
平成28年8月22日	台風9号	床上浸水14戸、床下浸水91戸
平成29年8月19日	集中豪雨	床上浸水9戸、床下浸水59戸
平成29年8月30日	集中豪雨	床上浸水5戸、床下浸水48戸
令和元年10月12日	台風19号	床上浸水28戸、床下浸水88戸

雨の降り方の程度(1時間雨量)

やや強い雨 (1時間に10mm~20mm)		地面一面に水たまりができ、話し声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなら警戒してください。
強い雨 (1時間に20mm~30mm)		傘をさしてもぬれてしまうほどの土砂降りの雨で、側溝や下水、小さな川があふれる心配があります。今後の様子に注意し、長引きそうなら避難の心構えをしてください。
激しい雨 (1時間に30mm~50mm)		バケツをひっくり返したような激しい雨で、浸水の危険が一層高まりますので、避難の準備をしてください。
非常に激しい雨 (1時間に50mm~80mm)		滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなり、車の運転は危険です。避難勧告や避難指示が出る場合がありますので、ラジオやテレビからの情報に注意してください。
猛烈な雨 (1時間に80mm以上)		息苦しくなるような圧迫感がある雨で、恐怖を感じます。災害の発生に対して厳重に警戒してください。

避難が必要になった場合には

屋内での避難



地下室は危険

地下室は、一気に雨が流れ込む危険性があります。大雨になることが予想されるときは、雨が降り始めたら、直ちに上の階へ避難しましょう。地下室では、外の様子がわかりにくいということに、十分注意してください。

2階以上への避難



浸水が始まり、屋外が危険と感じる場合には、自宅や近くの建物の2階以上に避難し、水が引くの待ちましょう。

避難場所などへの避難

浸水被害の発生が心配される場合には、浸水する可能性がない知人宅や、朝霞市が開設する避難場所へ避難することも考えられます。避難する際には、次のようなことに注意しましょう。

屋内での避難

避難行動を早めに始めましょう!

テレビ、ラジオなどで、雨の降り方を把握し、早めに行動を始めましょう。

避難をする前に!

ガスの元栓、電気のブレーカーなどの火元止めましょう。また、親せきや知人などにどこへ避難するか連絡しましょう。

車ではなく、徒歩で避難しましょう!

浸水しているところでは、車が水に浸り動かなくなることがあるので、車での避難は、やめましょう。

動きやすい格好、2人以上で避難を!

避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心掛けましょう!



避難時の注意箇所

避難場所までの路上には、いろいろな危険が潜んでいます。日頃から身の回りの様子を観察し、大雨のときに注意すべき場所を確認しておきましょう。

堤防などに囲まれた地域

堤防などに囲まれた地域は、排水能力が低く水が溜まりやすくなっています。洪水時には周辺よりも浸水深が深くなる危険があります。



地下道

地下道は、浸水時には周辺から水が流れ込み危険です。



水路の周辺

水路周辺は、浸水の可能性が高く危険です。また、水路には、ガードレール等の柵がない場合があります。浸水時には、水路の場所がわからなくなり、流される危険があります。

